

免震構造を採用する先端企業の訪問 第4回

キューピー株式会社

- キューピーグループの事業継続を支える免震構造 -



社会環境部会 委員長
大成建設 久野 雅祥

「免震構造を採用する先端企業の訪問」の第4回目としまして、2014年度の日本免震構造協会の作品賞を受賞しましたキューピー株式会社のグループオフィス「仙川キューポート」に、キューピー株式会社を2015年11月25日に訪問しました。

お話を聞きしましたのは、キューピー株式会社経営推進本部 長谷部敏朗様、仙川キューポート部 櫻井尚樹様、同施設環境チーム 榊原宗敏様、中島亮様の4名です。訪問しましたのは社会環境部会の委員長である久野（大成建設）、川島委員（ナイス株式会社）、東委員（山田守建築事務所）の3人と今回の窓口をしていただいた大成建設の熊谷真吾様の4名です。

最初に、会社概要、仙川キューポートの説明をしていただき、仙川キューポートの施設をご案内いただいた後に、今回の訪問の目的である免震構造を採用した理由、経緯、今後の取組み等についてお話を伺いました。



取材風景

会社紹介

キューピー株式会社は1919年に食品工業株式会社（1957年にキューピーへ社名変更）として創業し、社是を「楽業偕悦」（「業を楽しみ、悦びをともにする」）とし、マヨネーズ、ドレッシングなどの調味料事業を中心として、食生活に貢献してきました。現在は、調味料事業、タマゴ事業、サラダ・惣菜事業、加工食品事業、ファインケミカル事業の5つの食品事業と物流システム事業の6事業で成り立っています。

食品事業は、内食（マヨネーズ、ドレッシングなどによる手作り）、中食（惣菜や仕出し屋の弁当、調理済みのパンなど持ち帰り商材向け食材）、外食（タマゴ製品などをレストラン・外食産業チェーンなどへ提供）に分けられ、それぞれキューピー単体、グループ会社が担っていますが、研究開発、商品開発においてはグループ間の協力が欠かせません。2000年までは分社型の経営スタイルでしたが、2002年頃から社会の環境の変化に対応してグループ経営を強化してきました。「作り手発想」から「お客様の視点」で食の場面に応じた商品の考え方に立ち、グループで新商品の開発とスピードアップを図ることにより、お客様の生活へ貢献できる商品開発に努めてまいりました。

仙川キューポートについて

仙川キューポートは旧仙川工場の跡地にあり、1951年に開設された仙川工場は約60年にわたりマヨネーズの主力工場でしたが、2011年に生産を終了しました。仙川キューポートは、この地に、「グルー

プの融合によるシナジーの発揮」「営業と研究開発との一体化による付加価値創造」を実現する拠点として、2013年10月に開設されました。これにより分散していた首都圏の事業所は、仙川キューポートに集約されました。

「キューポート」とは「キューピー」と「ポート(港)」が組合された言葉で、従業員からの公募により決められました。

仙川キューポートの建物については、「MENSHIN NO89」の第16回日本免震構造協会賞作品賞に記事で紹介されていますが、建物を見学させていただき、新ためて、施設の特徴をいくつか紹介します。

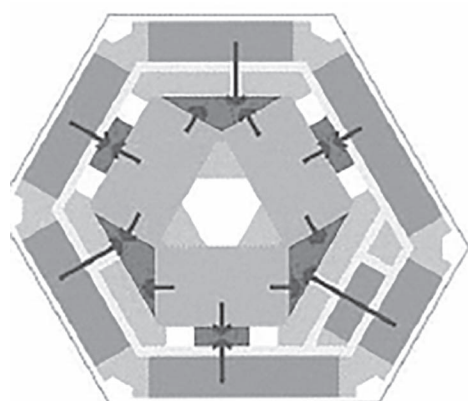
建物は、六角形の形状をした地下1階、地上5階、延べ床面積29,249㎡、鉄骨構造の免震構造です。構造的には、外壁面に鋼板を内蔵した格子状のPCa柱で構成されたアウトフレーム構造で、地下に、外周部には鋼材ダンパー一体型積層ゴムを配置してねじれ剛性を確保し、積層ゴムと併せて計106基の免震装置で支えられています。外観は、アウトフレームが斜め格子状になっており、マヨネーズの包装の網目を連想するデザインとなっています。アウトフレーム構造の採用により、室内の柱の数を減らし、開放的な空間を生み出しています。

平面は、六角形の特徴を生かし、内部は交流を生み出すオープンスペースとなっており、コピーなどの複合機は「aima (合間)」と呼ばれるコミュニケーションスペースにまとめられ、会話、出会いの場を

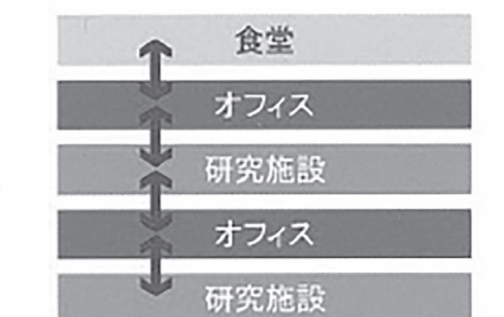
生み出すように計画されています。一方セキュリティが必要な本社やグループ会社の本社機能は外周部に配置されており、「セキュリティ」と「シナジー」という相反するニーズが両立するように計画されています。

建物の断面は、1、3階が研究施設、2、4階がオフィス、5階が食堂であり、オフィスと研究施設を交互に配置しているのが大きな特徴です。今までにない「オープンラボの研究開発部門」と「グループのオフィス部門」を交互に配置する「ミルフィーユ構造」とすることにより、日頃から、同じ階での交流のみならず、上下階の回遊性により異なる部署の交流を促すことが意図されています。営業部門がオフィスと一緒にいたい部門の一番は開発・研究部門とのことで、これにより、新たな商品が開発され、またスピードアップも図れるようになっています。

施設の見学をさせていただいた後、川島委員の「積層ゴムと似ていますね。」という感想は言い得て妙で、積層ゴムは薄いゴムと鋼板を交互に重ねることにより、建物の重量を支えられるようになっていますが、研究施設とオフィスを交互に配置することにより、研究開発部門とオフィス部門の交流により新しい商品が生まれ、グループ会社の連携も図られています。



平面構成



断面構成

(いずれも「仙川kewport」パンフより)



外観



免震層

施設を見学させていただいた後、免震構造の採用理由、今後の予定などについてお話を伺いました。

■ 免震構造を採用した理由、経緯についてお聞かせください。

仙川キューポートの計画に当たっては、1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災の大きな二つの地震の経験を踏まえて、キューピーグループの事業継続をゆるぎないものにしたいという思いがありました。

仙川キューポートは本社建替えによる本社一時移転と、研究施設、グループ会社とその本社が入る施設であり、大地震時には対策本部としての機能が求められます。首都圏で大規模地震が発生した場合に、本社機能、受注機能、デリバリー手配機能、物流機能を保持できないと、全国的に影響を与え、供給責任を果たせなくなる恐れがあります。したがって、仙川キューポートは大地震時にも建物が損傷しないだけでなく、電気、水道、空調などの設備系統の機

能を確保する必要があります。このような本社の機能を維持し、事業継続を図るために免震構造を採用しました。当初は、「免震までは」という考えもありましたが、検討を始めた直後に2011年の東日本大震災が生じたこともあり、免震構造に決めました。

なお、来年（2016年）1月に渋谷に免震構造による本社が完成し、仙川からキューピー単体本社が移転しますが、仙川キューポートは、首都直下地震が発生した場合に持久力を発揮させる緊急対策本部と位置付けられています。

■ 事業継続に関連した取組みについて

仙川工場時代から中圧ガスを使用していましたが、中圧ガスは耐震性が高く、大地震時にも供給停止の可能性が低いため、停電対策として、ガスによるコージェネレーション発電機を設置し、非常用発電機と併用して使用しています。特に、研究施設では停電により支障をきたすものもあり、停電に対しては特に気を使っています。

水については、井戸水を利用して、事業継続を行う上で必要な水の量を確保します。

非常時の通信としては、グループ社員の安否確認を最優先した上で、各地点との連絡は、MCA無線機および衛星電話を設置し、定期的に訓練を行っています。

また、サプライチェーンについては、農林水産省より上流、下流も合わせて考えるようにとの指導がありますが、重要商品を選定し、原料供給と生産、販売拠点を複数にして冗長性を高めています。

残された課題に、オフの時間に地震が起きた場合の対応がありますが、日頃から徒歩集合訓練などを行い、耐震性の高い建物とどのように行動するかを併せて対応できるようにしています。

■ 今後の免震構造の採用について

仙川キューポートで免震構造を採用して、やはり安心感から、渋谷の本社ビル、および、神戸工場も免震構造を採用しています。今後も新しい施設に対しては、「何を守りたいか」「何を維持継続したいか」といった要求される性能に応じて免震構造の採用を考えていきます。

免震構造協会として、免震構造は、大地震後も機能維持を図れるという利点の他に、初期の建設費は耐震構造より若干高くなるものの、今後想定される

地震による損害額、復旧コストといった地震リスクを考えると、ライフサイクルコスト上も合理的であり、資産価値の面からも有効であることもアピールさせていただきました。

また、竣工後、大きな地震は体験していませんが、いくつか地震はあり、免震構造固有のゆっくりとした揺れは体験しており、中で働いている社員にもこの建物が免震建物であることは浸透しています。

■ 社会貢献、地域貢献活動について

社会貢献としては、普段は、食を通して情報を発信することが第一です。災害時には、行政と協力しながら物資の支援や地域の方々への支援を行います。また、地域の防災拠点として、避難場所には指定されていませんが、甲州街道の帰宅困難者への対応も検討しています。

また、女性の働きやすい職場環境のために保育所を設置し、東京都認証保育所「ゆらりん」として、地域住民も利用できるようになっています。

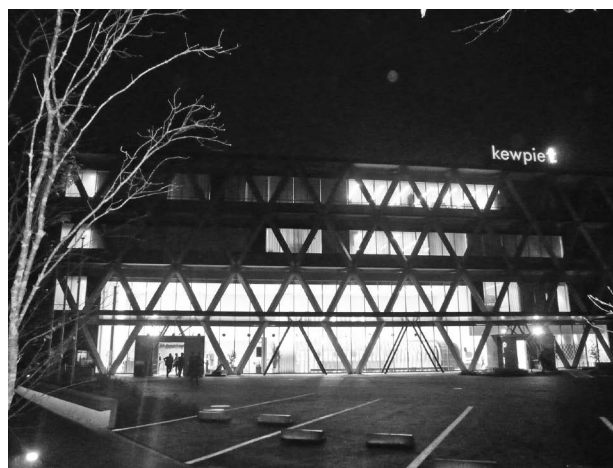
仙川工場の時代から地域住民との交流は行っていますが、グループオフィスとして生まれ変わった「キューポート」内にも「マヨテラス」という見学施設を設け、併設する敷地内のグッズを販売する「キューピーショップ」はいつも利用できるようになっています。なお、「マヨテラス」の予約は、2か月前の第1営業日より受け付けています。

インタビューを終えて、ロビーに飾られている日本免震構造協会作品賞の楯の前で記念撮影を行いました。



ロビーで 中央が日本免震構造協会作品賞の楯

外に出るとすっかり暗くなっており、仙川キューポートに灯りがともり、その光景はコーポレートメッセージ「愛は食卓にある。」の通りのキューピーマヨネーズが食卓にある暖かい家庭を連想しました。とても寒い日でしたが、暖かい気分で仙川キューポートを後にしました。



灯りがともった外観



見学ブースのマヨネーズ模型

取材を終えて

仙川キューポートの門には「キューピー株式会社 仙川グループオフィス」とあり、グループで経営を高めて行こうとする姿勢を感じました。免震構造はキューピーグループの事業継続に向けたプラットフォームであると確信しました。また、敷地内へは入門手続きがなく入ることができ、工場時代からの地域との結びつきを大切にしていることを感じました。(久野)

グループで連携することがとても重要と考えた形が、仙川キューポートで実現していました。新しい商品の発想を生む為のユニークな仕掛けが沢山あり、素晴らしいオフィスだと思いました。事業継続のために採用された免震構造を始め、非常時のインフラがしっかり整えられていて、企業の意識の高さを感じました。

(川島)

今回、仙川キューポートを訪問し、「キューピー株式会社」が表題通りの「先端企業」であることを実感しました。施設の計画および運営にあたり、最先端の考えを取り入れ、様々な新しいことに取り組んでいることは、素晴らしいと思いました。さらに、免震構造の施設がこれらの活動に貢献していることは、うれしく感じました。(東)